



知的財産推進計画2026

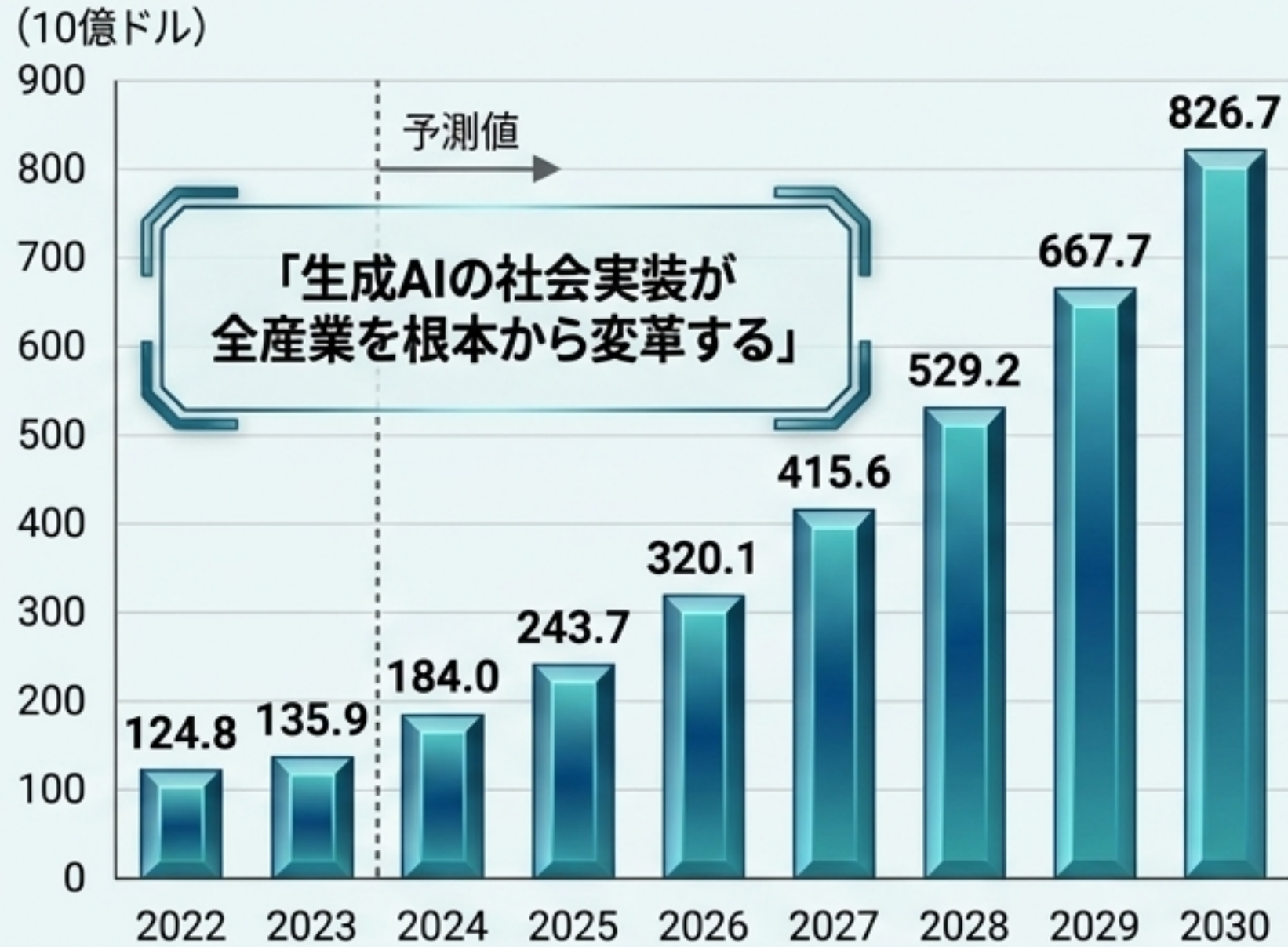
成長のエンジンとしての知財戦略 —— 新たな無形資産・AI時代における国家のブループリント

2026年6月 | 首相官邸 知的財産戦略本部

パラダイムシフト：AIの爆発的普及と無形資産の格差

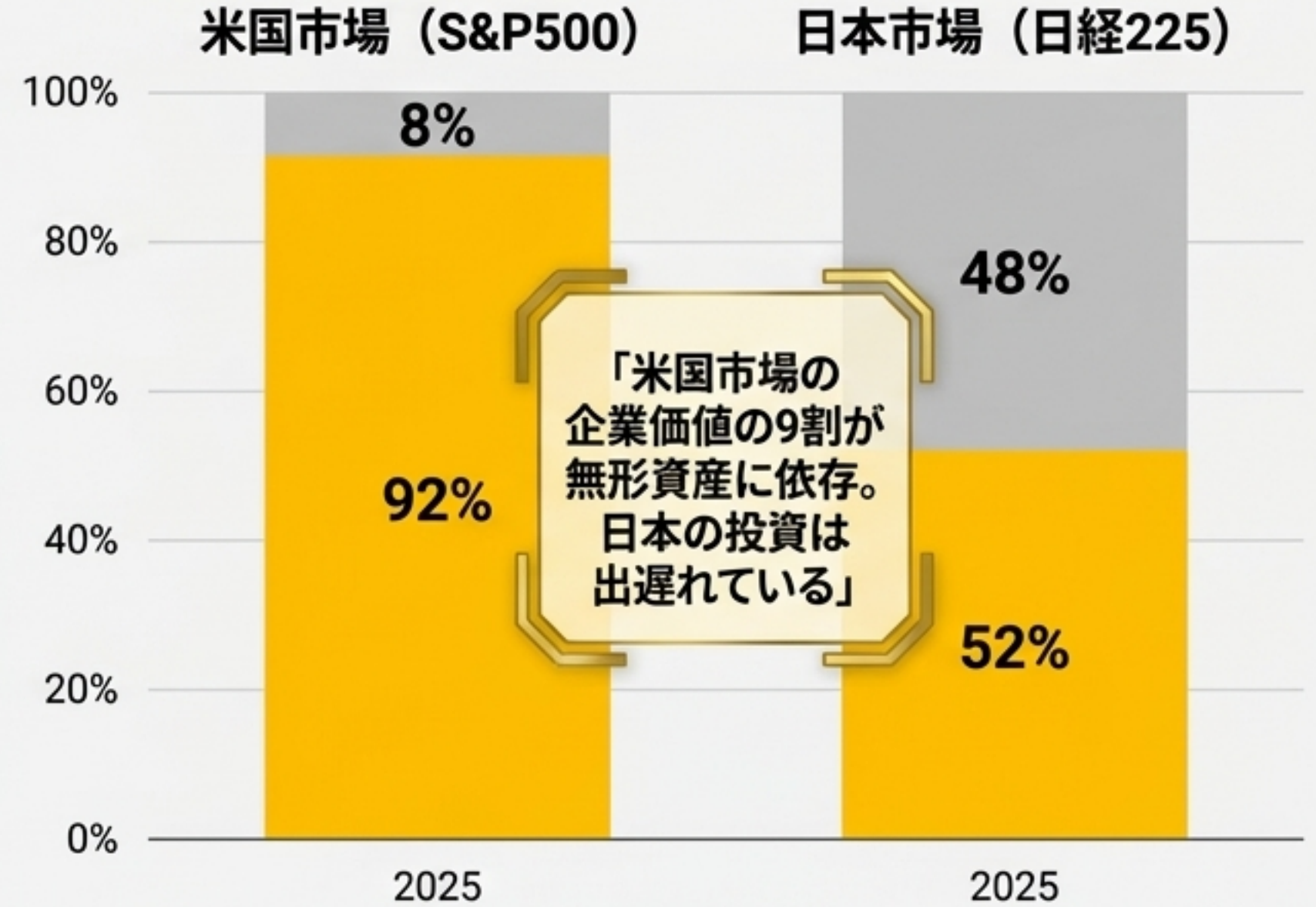
The AI Explosion

生成AI市場の急成長



The Intangible Asset Gap

無形資産投資における日米の圧倒的格差



知財・無形資産はもはや「防衛ツール」ではなく、国家・企業の「稼ぐ力の源泉」である。

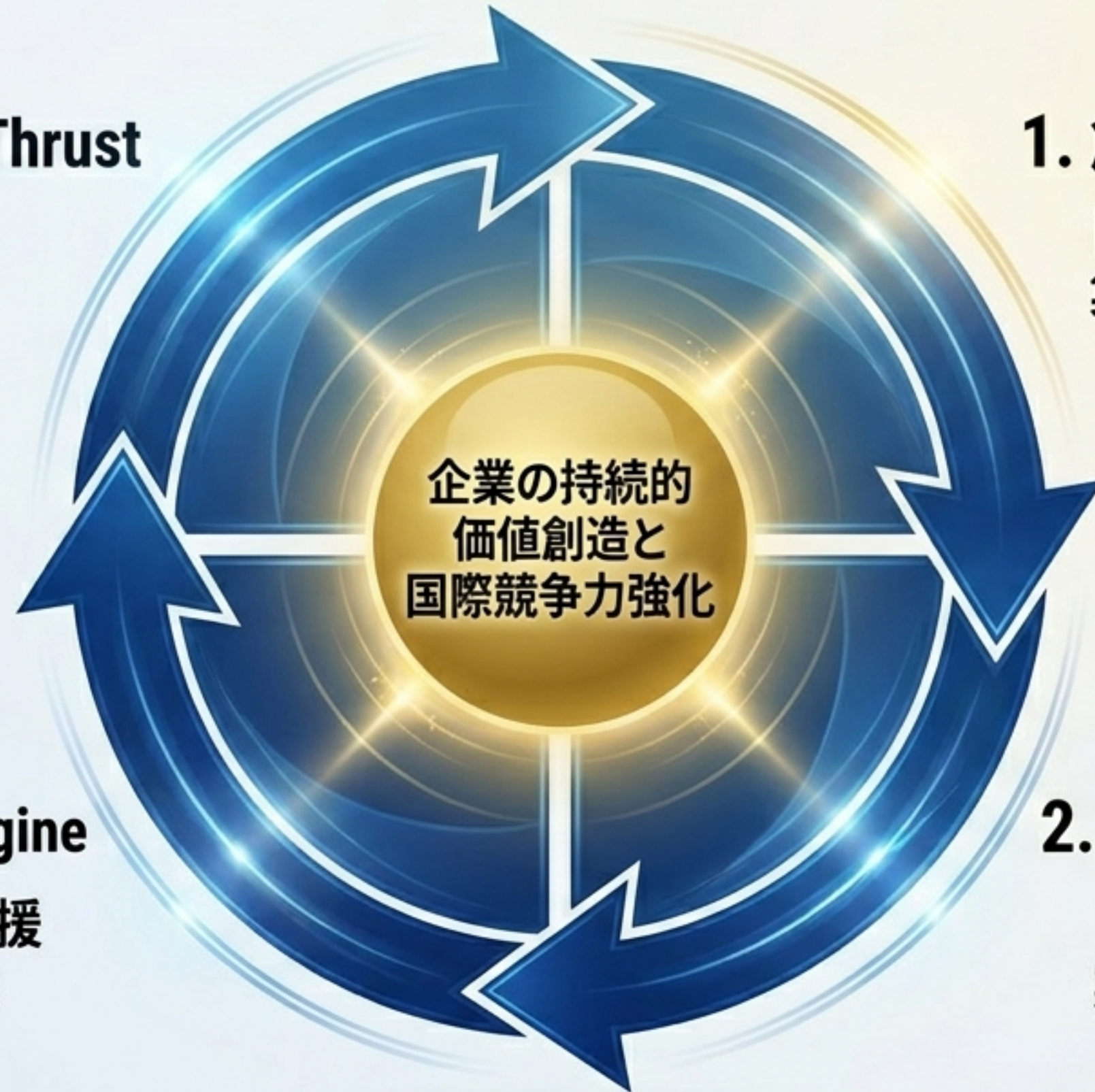
成長のエンジン：知財推進計画2026の4本柱

4. Cool Japan (CJ) - Thrust

2033年・海外展開50兆円
市場への飛躍

3. 活用 (Utilization) - Engine

産学連携・スタートアップ支援
による社会実装の最大化



1. 創造 (Creation) - Fuel

日本成長戦略17分野への
集中投資とAI時代の権利保護

2. 保護 (Protection) - Shield

経済安全保障の確保と
実効的な侵害抑止力の構築

創造 (Creation) : 知財を経営の中核へ実装する

Step 1: 経営層の意識改革

CxOの役割明確化。
短期利益の追求から
中長期の成長投資(無形
資産)への転換。

Step 2: ガバナンスと開示

令和8年度中「知財・無形資産
ガバナンスガイドライン」
改訂。有価証券報告書や
統合報告書における
開示の必須化。

Step 3: IPランドスケープの実践

知財情報分析を活用し、
日本成長戦略17分野に
おける自社の「勝ち筋」
を特定・投資。

知財部門を「特許出願部署」から「経営戦略の中核」へアップデートする。

創造 (Creation) : AIと知財の戦略的バランス

生成AI技術の進歩促進

日本の業務AI利用率は55.2% (米国90.6%、中国95.8%に遅れ)



- 安全・安心な利用環境の整備
- AI for Scienceの推進と特許実務でのAI利活用拡大

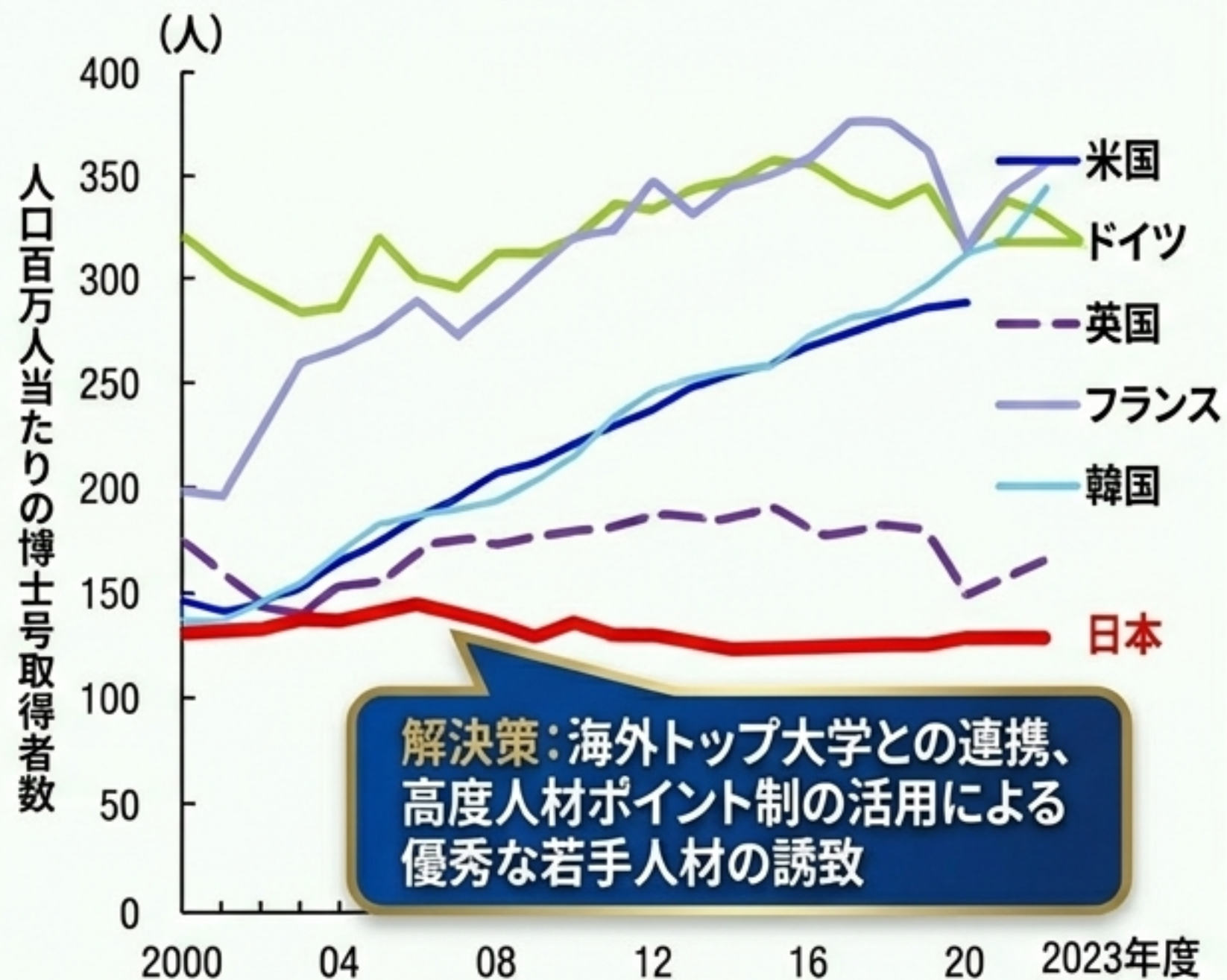
知的財産権の適切な保護

- 「プリンシプル・コード」の制定による透明性確保
- 俳優や声優等の声・容姿の無断生成を防ぐハードロー整備 (不正競争防止法改正等)
- クリエイター等への対価還元システムの構築

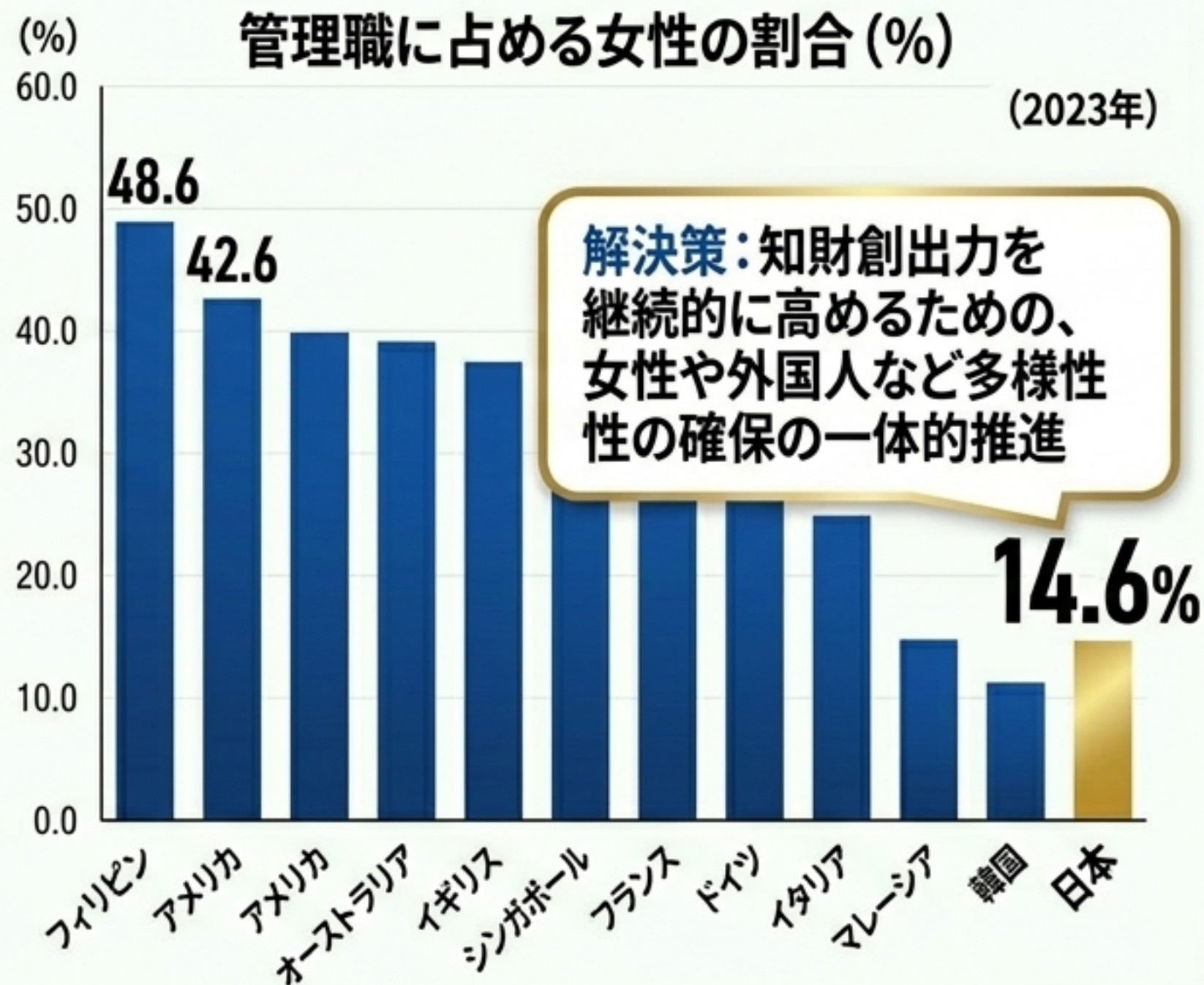
真のイノベーションは、積極的なAI活用と強固な権利保護の「両立」から生まれる。

創造 (Creation) : 成長を阻む「創造人材」のボトルネック

研究人材の停滞



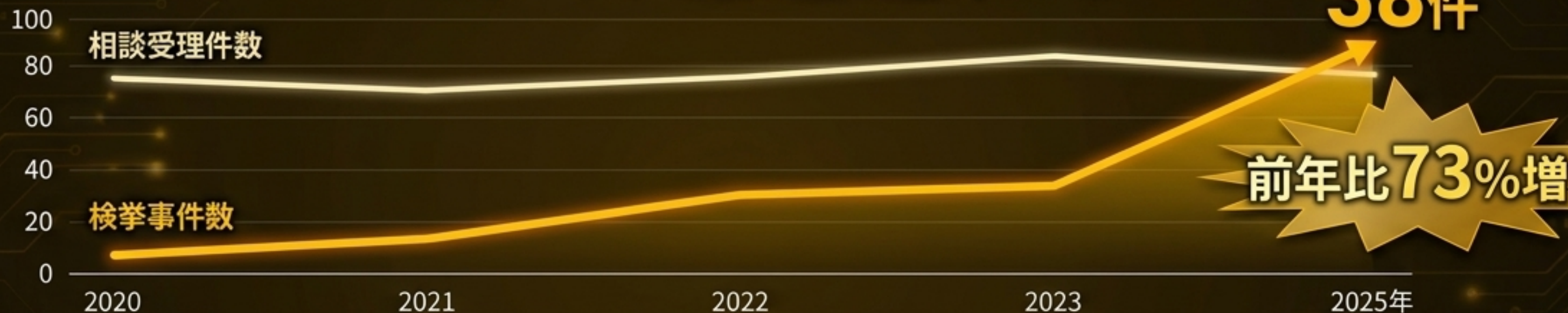
ダイバーシティの遅れ



保護 (Protection) : 経済安全保障と技術流出の阻止

Threat

エスカレートする営業秘密漏洩リスク



地政学的緊張の高まりや人材流動化に伴い、意図せざる技術流出リスクが急増。

Defense

国家の防衛メカニズム

法的枠組みの強化

不正競争防止法の見直しによる
被害者救済と国外漏洩防止

ガイドラインの徹底

「営業秘密管理指針」や
「研究インテグリティ確保の手順書」
の資金配分機関への適用

新たなリスク管理

民生技術の経年による
軍事転用リスクへの対応

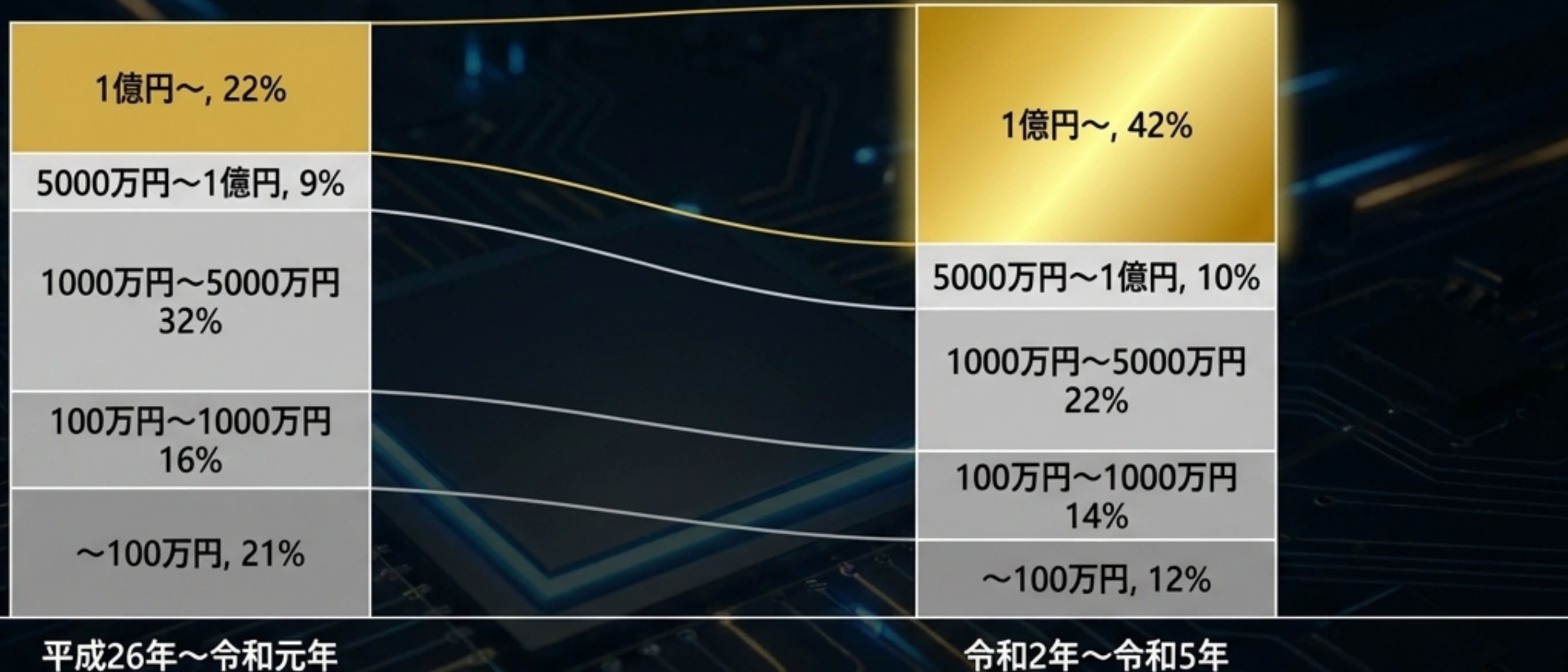
保護 (Protection) : 海賊版対策における官民一体の勝利

アクセス数 (単位=万)



官民一体の国際的連携による
直接介入が、被害の劇的な減少を証明。
(Next focus: SNS上の「誘導型詐欺広告」対策)

保護（Protection）：知財侵害の「コスト」急上昇

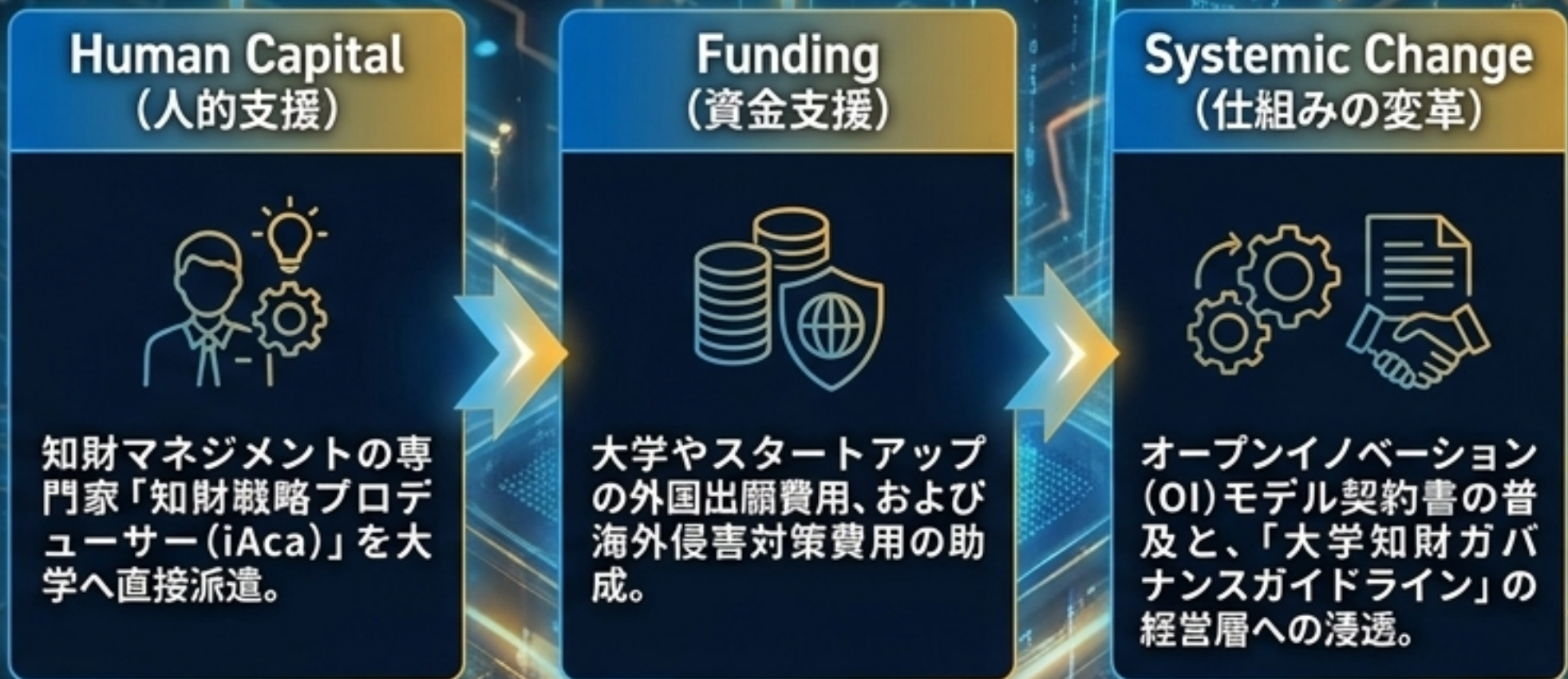
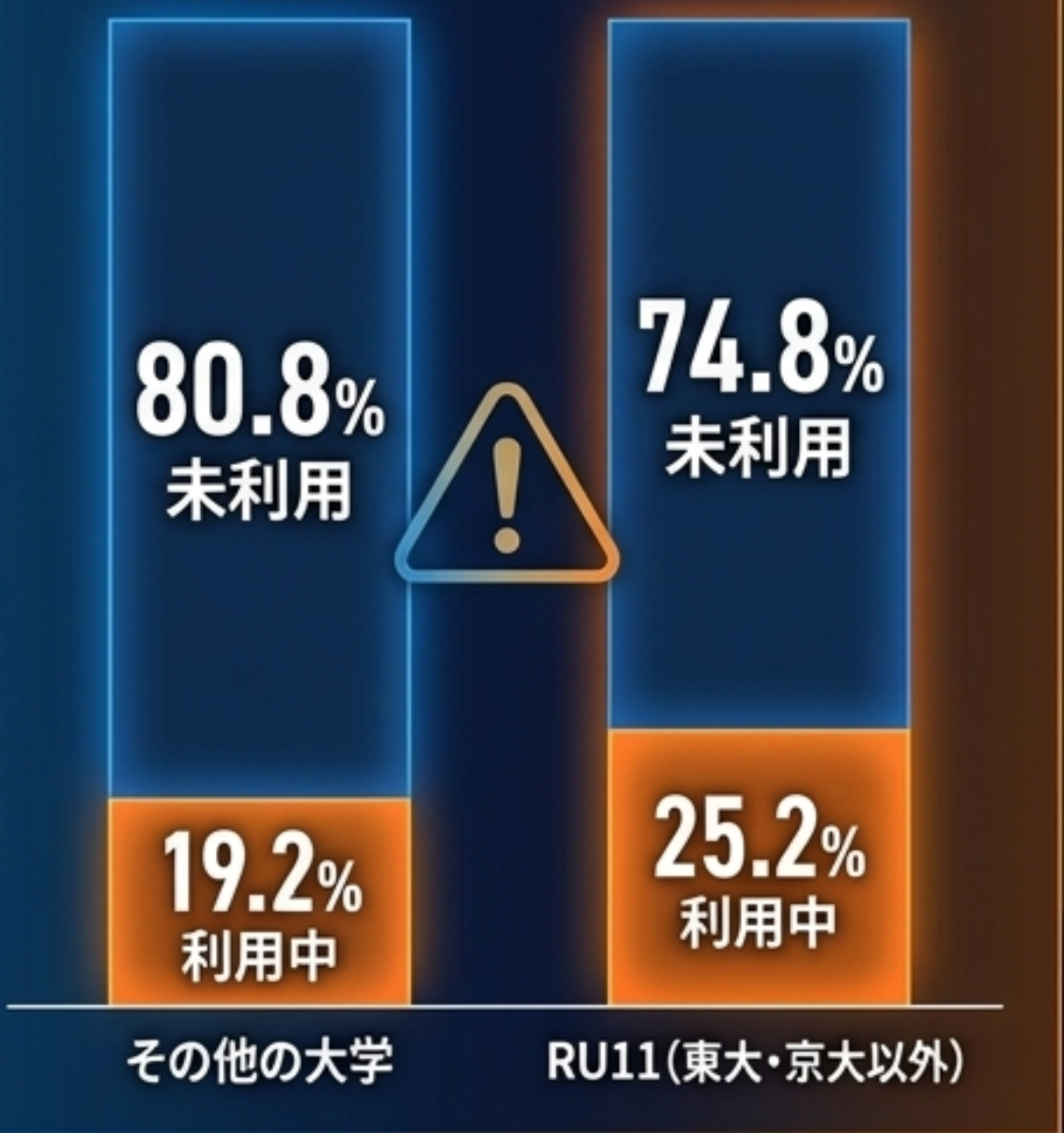


導入検討	環境整備
損害の回復と、侵害者の「利益の剥奪」を確実にする民事救済措置の導入。	著作権や営業秘密への査証制度拡大、海外所在証拠への対応など、証拠収集手続の抜本的強化。

日本における知財侵害リスクはかつてなく高まり、強力な抑止力として機能し始めている。

活用 (Utilization) : 大学知財という「眠れる資産」の解放

機会損失：約8割の大学特許が
未利用のまま放置



活用 (Utilization) : スタートアップを知財で防衛するロードマップ



大学発スタートアップは5,074社に到達。全体で25,000社のエコシステムへと拡大中。



活用 (Utilization) : ルールメイキングとしての国際標準戦略

KPI 1 : ISO/IECの幹事国引受数でトップ5を維持(2030年)。
KPI 2 : 戦略17分野における日本主導の国際標準・ルールの策定数。

新たな
主要KPI
グローバル・
ルールメイクの主導

AI・デジタル技術の標準化活用。
アカデミアでの人事評価への組み込み。
政府全体の「標準戦略監(仮称)」の検討。

エコシステム強化
標準化エコシステムの構築

官民投資ロードマップに
国際標準化を初期段階から
ビルトイン。

戦略の一体化
研究開発・知財・事業戦略の一体化

インサイト : 世界のルールに従う側から、世界市場のルールを創り出す側へ転換する。

Cool Japan : 50兆円市場への飛躍(未来構想ダッシュボード)

現在: **30.7兆円**
Current Overseas Expansion Scale

2033年目標:
50兆円

食・農林水産物:



10.4兆円



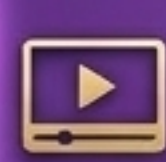
インバウンド消費:



9.5兆円



コンテンツ:



6.1兆円



ファッション・化粧品:



4.7兆円



Strategic Enablers



異分野連携の強化

(コンテンツ×食、コンテンツ×観光)



コンテンツ地方創生拠点の

全国拡大



グローバルな「日本ファン」を

10ポイント増加

コンテンツ（Content）：グローバル展開の加速と20兆円ロードマップ



2033年目標: 20兆円

「メディア芸術ナショナルセンター(仮称)」
(アーカイブ、保存、リサーチの国家的拠点)

「クリエイター支援基金」の創設
(複数年支援による独創的な人材と
グローバルビジネス人材の育成)

大規模・長期・戦略的な官民投資
(予算配分の全体最適化と一元化)

知財を基軸とした国家の好循環 (The Virtuous Cycle of Sovereign IP)



知的財産は、日本がグローバル競争を勝ち抜くための「究極の国家資本」である。